



## ごあいさつ

皆様には、平素より私ども「熊谷商工信用組合」に格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。当組合は埼玉県北地域のコミュニティバンクとして地域の皆様と共に歩み、今日の営業基盤を築いて参りました。より多くの皆様に当組合の経営内容や活動実績をご覧頂き、一層ご理解頂けるよう、今年度もディスクロージャー誌を作成致しました。

当組合はおかげさまで本年3月に創立70周年を迎えることが出来ました。3月15日には「創立70周年記念式典」を熊谷市・深谷市・行田市・鴻巣市・寄居町の市長・町長様、商工会議所会頭様、商工会会長様にご臨席頂き、また多数のご来賓様、総代様、お取引先様にもご出席頂き、盛大に挙行致しました。また、熊谷のうちわ祭り際には、当組合の本店の前に、

全町内12台の山車・屋台が総揃いし、巡行叩き合いが盛大に行われ、大勢の見物客に楽しんで頂きました。

令和4年度は、コロナ禍の影響が長期化する中、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した資源・エネルギーの高騰、世界的な物価上昇とその対策としての市場金利の急激な上昇等、世界経済に暗い影を落としました。日本でも倒産件数が増加に推移、金融政策にも変化の予兆が現れ、市場金利の急激な上昇、債券相場の急落へと繋がっていきました。

かかる状況の中、令和4年度の当組合の業績に関しましては、コロナ関連融資の滞留資金が順次活用されたことにより、預金は減少しましたが、貸出金は新規需要を発掘し、現状を維持し、貸出金利収入は1,002百万円で目標を達成しました。

しかしながら、有価証券の評価損圧縮を目的として、前倒しで有価証券を大量に売却したため配当収入が激減し、結果としてコア業務純益は31百万円となりました。また、コロナ禍の影響による与信費用の増加に加え、国内外の市場金利の急激な上昇に伴う有価証券処理費用を計上した結果、当期純損失985百万円となりました。

出資金の配当につきましては、期末時点で、配当原資となるその他利益剰余金を上回る有価証券評価損1,339百万円を抱えることとなった結果、法令により配当金のお支払いが制限されることとなり、誠に遺憾ながら当期の配当を無配とさせて頂くこととなりました。なお、財務の健全性を示す自己資本比率は7.00%と国内基準4%を超えております。

令和5年度は、コロナ禍での規制が徐々に解除され、経済活動も活発化の兆しを見せつつありますが、地域経済では依然として回復途上の先が多く、予断を許さない状況です。

今後は、当組合を有価証券の利息配当や売却益に依存しない「本業収益だけで経費を賄える自立可能な体質」へと経営改善することが急務と考え、早期に復配を実現するためにも自己資本の充実による財務基盤の強化と地域での資金供給機能の充実を図って参ります。

この点に関しましては、信用組合業界の系統中央金融機関である全国信用協同組合連合会が資本増強支援を含め、当組合を全面的にサポートする方針を打ち出しており、当組合も、その指導・サポートを仰ぎ、資本増強支援を含め、経営強化に取り組んで参ります。

令和5年7月

熊谷商工信用組合 理事長 **吉田 豊**